

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形論 I	・衣服全般の基礎知識を習得する。(縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察) ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。 ・ドレーピングの基礎知識を習得する。(ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング)	1・ 通年	120	4	○			○			○	
○			服装造形デザイン I	1 基礎 I (一般知識・縫い方の基礎) 基礎縫いAミシン縫い・B手縫い 2 体型研究 身頃原型・スカート原型 (1/4・実物作図)・トワル製作・試着補正・レポート 3 スカート I デザイン・パターン・実物製作・レポート 4 シャツブラウス I デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・ 通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形パターンメイキング I	6 子供服 デザイン・パターン・実物製作・レポート 7 バザー作品 文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 8 スカート II デザイン・パターン・実物製作・レポート 9 ジャケット I デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・ 通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形ソーイング I	10 ワンピースドレス I デザイン・パターン・実物製作・レポート 11 パンツ I デザイン・パターン・実物製作・レポート 12 ドレーピング基礎 (文化ボディ) 胸ぐせダーツのバリエーション (アームホールダーツ)	1・ 通年	210	7			○	○			○	
○			量産技術概論・実習	アパレル製品の生産について関心を持たせ、一品作りと量産の違いについて認識させること目標とする。 実習として工業用ミシン・アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法を習得する。 生産指示書類の見方に関する講義や特殊機器見学を行い工業生産に関する理解を深める。	1・ 通年	30	1	○		△	○			○	

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自由研究 I A	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			自由研究 I B	・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会(展示会)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・後期	30	1			○	○			○	
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○			○	
○			ファッションデザイン画 I	衣服と身体との関連性を理解し、構造を交えながら絵として表現する技術を学習する。マーカーを使用した彩色表現を中心として、多様なアパレル素材の彩色方法を習得する。	1・通年	60	2			○	○			○	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・デザインイメージを見る側に伝える基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○			○	
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	1・通年	60	2	○			○			○	
○			服飾デザイン論 I	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定: 色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やデザイン展開、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○			○	

(3/4)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自制作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル(衣服)の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材(テキスタイルファブリック)を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ理解を図る。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○			○	
		○	英会話(自由選択)	日常生活の中、またファッションに関する事例からトピックを選び、それに関連した英語表現を学ぶ。文法事項の復習と補充、ロール・プレイを通じた会話練習、聞き取り、英作文などを組み込んだ構成とする。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			キャリア開発Ⅰ	『将来を考える』という基本テーマを通して、自身の今後のキャリアを考え今後学ぶべきことを考えるとともに、「聴く・話す・書く力(読む)」を養うことを目的とする ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○			○	

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			特別講義 I	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			校外研修 I	美術館見学等を通して、ファッション情報に関する見聞を広げる。 諸活動を通してコミュニケーション能力の向上を目指す。	1・前期	30	1			○		○			○
		○	コラボレーション <sup>a</sup>	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動(コンテスト活動など)への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。	1・後期	30	1			○	○				○
合計				18科目											1,110単位時間(37単位)

## 卒業要件及び履修方法

## 授業期間等

単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること

1 学年の学期区分

前期・後期

1 学期の授業期間

15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ニット概論	使用素材や作成方法など、ニット全般にわたる商品と技術について、基礎的な知識を学習する。将来、デザイナーとして必要な、商品企画や物づくりのための、幅広く体系的な見識と技量の養成を目指す。 具体的には、主として、ニットの代表的な商品である成型セーターの工業品としての「物づくり」に必要な、各段階での技術的知識及び管理方法とそのいろいろな実践的な応用方法を習得させる各論重視の教授を行う。	2・通年	60	2	○			○			○		
○			ニットアパレル論Ⅰ	ニットに関する専門職に従事することを想定して、ニット産業界の構造からニット製品の基本的な知識までを総合的に学ぶ。ニット独自の素材の糸や編地別の表現や製作上の特徴を理解したうえで、それらを有効に生かしたデザインを発想し表現する。また個性やオリジナリティなどの表現を大切に、ニット素材による衣服作りを「デザインと製品化」の視点から教育する。2年次は編み地の特質を生かした物づくりのプロセスを習得する基礎段階とする。	2・通年	120	4	○			○				○	
○			ニットアパレル演習デザインⅠ		2・通年	90	3		○		○				○	
○			ニットアパレル演習実技Ⅰ		2・通年	300	9			○	○				○	
○			ニットコンピュータシステム演習基礎	工業用編機を用いたニット製品の生産システムを理解するため、横編みの編成原理と編み立て方法を学ぶ。 デザインシステムとコンピュータ編機を使用して編地を製作し、3年次の工業ニット作品制作の基礎となる知識を養う。	2・後期	30	1		○		○				○	
○			ドレーピング・服装造形ⅠA	立体裁断を通して服作りの基本理論と技術をニットとの関連性を持たせて創造表現できるように指導する。	2・前期	30	2			○	○				○	
○			ドレーピング・服装造形ⅠB	前期ⅠAで学んだことを基本とし、シャツブラウス、ジャケットをドレーピングし、あわせてラグランスリーブの作図法、グレーディングを理解させ、ニットの各所に利用できるように指導する。	2・後期	90	3			○	○				○	

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	ファッションデザイン画の基礎から応用までドローイング及び彩色テクニックを習得。 ニットデザインにおけるデザイン画の表現力を身につける。	2・通年	60	2			○	○		○			
○			アパレル染色演習Ⅰ	染色に関する基礎的な知識と技法を、各実習を通して習得し、それをもとにアパレル制作に応用展開できる能力を養う。 さらに染色・加工の観点からテキスタイルについての理解を深めることを目標とする。	2・前期	30	1		○		○			○		
○			色彩計画Ⅰ	1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッションデザイン、コーディネートにおいて計画的に行う色彩活用の技術や考え方を学習する。	2・後期	30	1	○			○		○			
○			服飾手芸Ⅱ	作品制作の上ではさまざまなレース技法が欠かせない。 鉤針では表現できない種類のレースを学び、創造力を養いニット作品に応用していく。レースの基礎知識を身につける。	2・前期	30	1			○	○			○		
○			ニットマーチャンダイジングⅠ	ニットアパレルのマーチャンダイジング実務の指導とマイブランドの立ち上げから生産までの実務演習。ニットアパレルに特化した企画、構成、指示書作成などの演習を行い、確実な就職と即戦力になるニット企画プランナー・デザイナーを育成する。	2・後期	30	1		○		○			○		
○			英会話Ⅰ	英語の基本的な文法の復習をするだけでなく、英語を使って簡単なコミュニケーションが出来るようになる事を目標とする。グループ、ペア・ワークを中心に、会話の模擬体験を通して英語に親しむコース運営を目指す。また、ファッションに関する語彙なども導入する。初級は文法の確認を中心に行い、中級は自分のことを口頭で表現することを目指す。	2・前期	30	1	○			○			○		

○	グラフィックワーク基礎	<p>ファッションデザインの表現ツールとして、パーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自のデザイン能力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CGを使用したデザイン画の基本制作とCG活用術</li> <li>・ドロー系ソフト/Illustratorの基本操作と</li> <li>・ペイント系ソフト/Photoshopでの基本操作</li> </ul>	2・通年	60	2				○	○	○			
---	-------------	---	------	----	---	--	--	--	---	---	---	--	--	--

(3/6)

### 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			キャリア開発Ⅱ	<p>志望する企業への就職のために必要な基礎知識、および技術等の習得を狙う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内において、考える時間や発表する時間を設定し原体験を行うことにより経験値を高める</li> <li>・筆記試験対策を行う</li> </ul>	2・後期	30	1			○	○		○		○
○			校外研修Ⅱ	<p>研修旅行を通じて紡績、染色、ニットの各工場を見学しニットに関する知識を深める。</p> <p>島精機製作所を見学し、コンピュータニット横編機の歴史、製造工程、商品を見学する。</p>	2・後期	30	1			○		○		○	
	○		企業・学内研修 a	<p>企業での職場実体験を通して、職業人としての心構えを育てる。</p> <p>研修を受けることにより、現在学んでいる事柄の必要性を理解し、今後の学習意欲の向上につなげていく。</p> <p>企業研修先としてはアパレルメーカー・ニットアパレル商社・OEMなどの企画部門やニット製造部門など。</p>	2・後期	30	1			○		○		○	
	○		企業・学内研修 b	<p>企業での職場実体験を通して、職業人としての心構えを育てる。</p> <p>研修を受けることにより、現在学んでいる事柄の必要性を理解し、今後の学習意欲の向上につなげていく。</p> <p>企業研修先としてはアパレルメーカー・ニットアパレル商社・OEMなどの企画部門やニット製造部門など。</p>	2・後期	30	1			○		○		○	
		○	コラボレーションb	<p>企業とのさまざまなコラボレーションを通して、ニット専門科目の充実をはかる。</p>	2・通年	30	1			○	○			○	

○		特別講義Ⅱ	専門教科に関連し、より知識の充実をはかる集中授業、および一般教養を深める集中授業。	2・ 通年	30	1	○			○			○
学年合計			18科目	1,110単位時間(37単位)									

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ニット生産 概論	ニット業界のリアルな現状説明や業務内容の説明、実務に近い形での製品企画、仕様書作成、利益計算などの演習。PCを使った絵型作成の実演。就職後に少しでも企業の力となれる事を目標にしたカリキュラム。	3・ 通 年	30	1	○			○		○		
○			ニットアパ レル 論Ⅱ	アパレル業界でのニットウェア専門職に従事することを想定し、ニット造形の基礎理論を基に、実際の工業製品と同じ機器を使用した物作りを主とした授業展開。商品の中のハンドニット分野とハンドニット業界の就職にも対応できる手編みの応用技術の取得も合わせて行う。クリエイティブな分野から工業製品の量産までニットの幅広いデザイン表現・知識・技術の取得を目指す。 1. コラボレーション作品 デザイン・パターン・レポート (コラボレーションの内容により異なる)	3・ 前 期	120	4	○			○			○	
○			ニットアパ レル演習 デザインⅡ	2. 求心編み作品 (丸ヨーク) デザイン・パターン・実物制作・レポート 棒針作品 3. カット&リンクングジャケット (パンツ・スカート) デザイン・パターン・実物制作・レポート 工業機作品 4. バザー作品 (量産実習) デザイン・パターン・実物制作・レポート 工業機作品 5. ハンドニット作品 デザイン・パターン・実物制作・レポート 家庭機・ハンドニット	3・ 前 期	90	3	○			○			○	
○			ニットアパ レル演習 実技Ⅱ	6. ニットマーチャライジング作品 デザイン・パターン・実物制作・レポート・マイブランドプレゼン 工業機作品 7. 企業研究 ポートフォリオ 就職先に合わせた自由研究 実物制作またはレポート形式 研究プレゼン 8. 部分編み、2年編み機指導 ハンドニットの応用・高度な技術習得	3・ 前 期	270	9				○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ニット造形演習	テーマに基づいた編地提案を通じて発想力を育てる。今後の作品製作に生かせる様、ニットのテクニックを応用発展させる。	3・前期	30	1		○		○	○			
○			ニットコンピュータシステム演習	工業横編ニットの生産システムの理解、およびコンピュータ制御横編機、デザインシステム、特殊機器等の使用方法を習得し、ニット作品の製作を通じて、ニットアパレルの総合的理解を深める。	3・通年	180	6		○		○			○	
○			ドレーピングⅡ	2年次で学んだことを基礎とし、デザイン画から立体裁断で表現できるようにする。伸縮素材との関連性や違いを認識させながら、創作表現できるようにする。各アイテムが完成した際には全員の作品を並べて講評会を行い、良いものを見極める目を養う。	3・通年	60	2				○	○		○	
○			ファッションデザイン画Ⅲ	編み地の表現を中心に、即戦力となるドローイングスキルを習得する。それぞれの進路を意識し、それに適した表現方法を磨く。	3・通年	60	2				○	○		○	
○			ファッションマーケティング	常に変化を求められる熾烈な競争のもと、市場から得られた情報に基づき、将来を予測することは、企業にとって最も重視すべき問題の一つであり、マーケティングはそのような一連の作業を顕在化させる一つのツールでもある。本講義では、マーケティングに関する基本的な考え方を学ぶとともに、マス媒体を含むクロスメディアマーケティングの考え方を習得することで、与えられた環境や状況に応じた戦略立案に関する理解を深めることを目標としている。またグローバルな視野を持ち、世界へ向けてこれから私たち自身、日本がどんな戦略を持って仕掛けていくべきか考察、挑戦していけるような人材育成を狙いとす。	3・通年	30	1	○	△		○		○		○

## 授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ニットマー チャンダイ ジングⅡ	ニットアパレルのマーチャンダイジング実務の指導と、マイブランドの立ち上げから生産までの実務演習。ニットアパレルに特化した企画、構成、指示書作成などの演習を行い、確実な就職と即戦力になるニット企画プランナー・デザイナー育成を目標とする。	3・ 通 年	90	4	○			○		○		
○			デザイン文 化	デザインの原点ともいえる西洋における時代様式的美、モダンアート表現、日本の伝統美などあらゆる分野から美とその象徴性を学ぶ。各自が知識を深めるとともに、個性ある創造性が養われることを目標とする。	3・ 後 期	30	1	○			○		○		
		○	コラボレー ションC	科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、企業とのコラボレーション活動やコンペティションにグループまたは個人で参加する。企業とのやり取りを通して実社会での厳しさや、やりがいを経験し就職や今後の学生生活に生かす。	3・ 通 年	30	1			○	○		○		
○			特別講義Ⅲ	レギュラー授業において抱括できない部分の補足講義及び専門関連・専門分野の知識の習得を目的とし、視野を広め専門家として職業に従事できるように意識を高める為の集中講義。	3・ 通 年	60	2	○			○		○		
○			卒業研究・ 創作	3年間の集大成として、自由作品を創作。デザイン・素材・編地・技法・用具の選定、技術などの総合的な創作力を問う。作品本体に加えアクセサリーからヘアメイクまで総合的にコーディネートし、音効・照明・映像などの舞台演出を考え卒業制作ショーで発表する。	3・ 後 期	120	4			○	○		○		
学年合計				13科目											1,200単位時間(40単位)

合計	49科目	3,420単位時間(114単位)	
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること		1学年の学期区分	前期・後期
		1学期の授業期間	15週
(留意事項)			
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			